

焼酎紀行アクセス数

11/28～12/19までのアクセス数は **71,498 ページビュー**

でした。たくさんのご訪問ありがとうございました。

(1～11月平均：118,339 ページビュー)



論議の渦中にある酒税問題

自民党税制調査会は、「第3のビール」に的を絞った増税の2005年度の実施を見送りました。しかし現在の酒税体系に問題があるとの見解を示し、全面的な見直しを2006年度以降模索する見通しです

酒税改正論議のきっかけになったのは、「第3のビール」と呼ばれるサッポロビールの『ドラフト・ワン』の登場です。原料に麦芽ではなくエンドウマメを使用しビール・発泡酒より税額を抑えました。低価格が一つの魅力で、ヒット商品となりました。『ドラフト・ワン』は「雑酒」というカテゴリーに分類されます。

現在複雑な酒税体系を簡素化する一つの案として提言されているのが「蒸留・醸造・その他」の3種のカテゴリーに統一することですが、現状では明確な案は出ておりません。

焼酎は甲類・乙類とも税額は1リットルあたり248.10円(1.8L瓶で446.58円)です。高い!と思われる方も多いことでしょう。

酒税改正の基本的な考え方は、分類の簡素化と酒類間の税率格差縮小と見られますが、この場合、現在より税率が引き上げられるアルコールが続出する可能性が大きく、業界の強い反発は避けられそうにありません。

アヤちゃんコラム ～流行語とともに今年の焼酎業界を振り返る～

2004年も間もなく終わります。先日年末恒例の流行語大賞が発表されました。そこで今年の焼酎業界を流行語とともに振り返ってみたいと思います。

まず本格焼酎の愛飲者が全国にますます広がり本格的な焼酎ブームが起こった現状に「サプライズ」された業界関係者も多かったことでしょう。焼酎の消費の高まりに、清酒業界やビール業界も「新規参入」しているのはもう広く知られたお話です。そんなブームによって、質より量の生産体制をとって消費者にそっぽをむかれれば「自己責任」を被ることになります。良質なものを提供し続けることが肝要です。そんな最中、ニセ森伊蔵をめぐる詐欺事件が起こり、逮捕者が「出ちゃったって言うじゃない、残念!」「冬ソナ」人気が象徴するように、日本市場だけではなく海外も視野に入れた考え方が広がっています。日本向けの韓国焼酎が開発、発売もされました。焼酎メーカーの海外進出(小正醸造の中国進出など)や商社が介在した海外への売り込みも行われています。

今年もあと数日・1年の疲れを癒すべく焼酎を飲んで「チョー気持ちいい」と叫び、穏やかな気持ちで新年を迎えたいものですね。

今年は予期せぬ災害が全国で多発しました。被害に遭われた方には心からお見舞いを申し上げます。皆様、良いお年をお迎えください。

焼酎紀行HP更新情報

平成16年度 泡盛鑑評会結果

沖縄県国税事務所より「平成16年度泡盛鑑評会(古酒の部)」の審査結果が発表されました。沖縄県内の22酒造場が表彰を受け、うち5酒造場は沖縄県知事賞を受賞しました。

本格焼酎&泡盛試飲フェスタ IN 福岡 報告ページ更新!

11月10日、本格焼酎&泡盛試飲フェスタ IN 福岡が開催されました。出展メーカー98社から436銘柄の焼酎や泡盛が出品されました。大変盛況を見せた当日の会場の様子を報告しております。

焼酎豆知識「酎ハイの定義」

「酎ハイ」とは焼酎を割ったもの??いえいえ、実は違うのです。本格焼酎とは、全く別のカテゴリーとして分類されます。詳しくは「焼酎豆知識」をご覧ください。

さつま無双が『かめつぼ仕込み』の製造・販売を三和酒造に委譲

さつま無双は三和酒造をグループ会社とし、『かめつぼ仕込み』の専用工場を新設、製造を行っています。

白鶴酒造より「千夜一酔 粕取焼酎」が新発売!

お酒は20歳になってから適量を!

ヤマエ久野株式会社